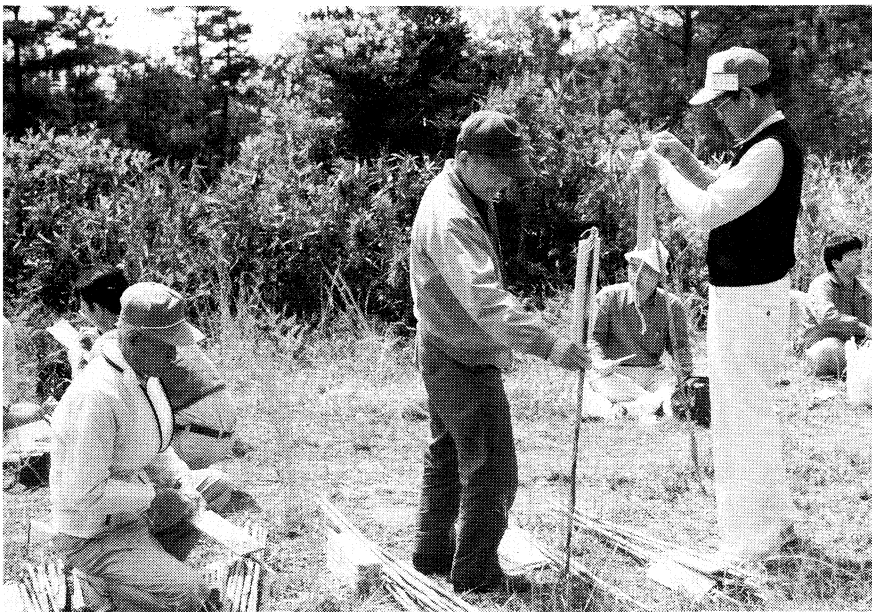


# 森の再生を？



豊島 未来の森トラストの札かけ準備  
豊島の再生を願って (4月20日アースデーイン豊島)



広島県吉和村の植樹風景 (4月20日森と水と土を考える会)  
中国山地の広葉樹林の再生を

## 目次

産廃処分場で立木トラスト (加茂町)	1
豊島・賠償ではなく謝罪を (松本 宣崇)	2
アースデー報告 (真鍋 宣子)	2
カヌーで豊島往復・テレフォンインタビュー	3
豊島の森によせて・弓削島からパッチワーク (塩見 美保子)	4
問われる瀬戸内法と環境庁	
岩国基地移設で藻場は (田村 順玄)	5
なぜ今、神戸空港か (中田 作成)	6
立木バンクの今 徳島県池田町 (工藤 政幸)	7
東広島市 (河野 好一)	7
吉和村の森づくり (原戸 祥次郎)	8
2つの手紙 (石川 美智・倉橋 澄子)	9
ご入会ありがとう・広島事務局だより	10

## 全国の皆様へ・立ち木トラストのお願い

広瀬の自然と環境を守る会 青年部

広瀬（福山市）からのささやかな願い

もうこれ以上のゴミ捨て場はごめんだ！

福山市北部の標高400mの山間部一帯を、我々住民は「広瀬」と愛着をもって呼んでいます。

この400mの高地が、過疎を生んだのです。そして、学校が廃校となり集落が消滅してきたのです。

御多分に漏れず、土地を売って出て行った後に残ったのは、廃棄物処分場でした。

今ある集落から北の山間部にかけての地形は、地元の人たちでも驚くほどの変貌を日々露呈しています。

こんな中、我々の住んでいる集落より直線距離にして、ほんの数キロの所に容積94万立方メートルの安定型最終処分場の設置許可申請が、広島県に提出されています。

平成4年5月7日には、オートバイ（モトクロス）練習場として、農地転用の許可が下りた場所でした。

使用目的が違うと、住民は怒りを覚えています。

そして、またゴミ捨て場かと、悲しい気持ちで一杯です。

山の民である広瀬住民が、そして青年部が、地域としては大変画期的な思いで、初めてのデモもしました。あの人が、このおじいさん、おばあさんも言う多くの人たち………皆の思いが集まったのです。



デモ行進

山道を里に買い物に、通勤に通う日々、ゴミを積んだダンプとすれ違うたびに、広瀬の谷が、山が、ゴミに埋まる姿を意識するのです。

現代の消費生活のひずみを、どれほどの人たちが、日々意識できるのでしょうか？

『もうこれ以上の排気ガスとゴミは要りません！』山の民である広瀬住民の心の中に、この叫びが渦巻いています。

山と自然を愛していればこそ、今我々は、この広瀬の地に暮らしているのです。この地に残り、暮らしている人間のほんのささやかな願いなのです。

山を活かすため・暮すために木を伐るのでなく、地を汚し、腐らすゴミ捨て場を作るために木を伐ることは、もうしてはいけません。

これ以上、木を伐らないために、そしてダンプの進入路沿線を守るためにも、立ち木トラストの協力を、ぜひ皆様にお願ひいたします。



水質検査

今、我々青年部の将来の夢（目標）は、過疎を逆手にとって、開かれた広瀬と共に、自給自足の広瀬高原を語り合っています。

今後とも、環瀬戸内海会議の一員として、よろしくお願ひいたします。



広瀬地域の自然破壊された様子

## 《豊島問題》香川県には賠償求めず、されど問う、その責任！

松本 宣崇（副代表・犬・カガワ・チーフ）

昨年11月24日、豊島住民は、それまでの「産廃即時完全撤去」の方針を変更し、島内中間処理後島外撤去という公害調停委員会提案の「第一案」を選択した。そして12月26日、業者を相手取って産廃の全面撤去と慰謝料を求めた民事訴訟にも全面勝訴した。さらに産廃の代替撤去、業者の破産申し立ても全て認められた。また今年1月、香川県もようやく中間処理に合意した。

しかし県は、豊島住民の求める行政責任と謝罪を頑に拒否し、中間処理調査研究の目的の表現をめぐり対立して、住民にとって最も大事な「中間処理後の産廃の島外撤去」は残されたままである。

豊島住民は3月30日、第3回の住民大会を開催し、あらためて「県が行政責任を認め謝罪し、「産廃の中間処理後島外撤去」することを確認した。さらに4月6日の緊急集会では、中間処理調査で県と合意するため、県が行政責任を認め謝罪しても、賠償請求は放棄することを決議した。問題を長引かせ深刻にしてきた県に対する住民の不信感は言葉で尽くしがたいが、香川県の最も恐れる「行政責任に基づく損害賠償」の

放棄を豊島住民は決断したのだ。「金が欲しいのではない、きれいな島を取り戻したいだけだ」と。

島内での中間処理受入れは、「即時完全撤去で、第二の豊島はつukれない」と考えた末のギリギリの譲歩であった。その一方で、20年以上にわたり裏切りを繰り返してきた県が「行政責任を認める」とことと「最終的に産廃の島外撤去」することは住民には譲れない、県との信頼関係修復の要件である。

10年近く繰り返された不法投棄を止められなかった責任を県が認めるなら、「子供たちのため、島を豊かな自然が溢れる元の姿に戻したい」と願い、新たな解決の道を求めたのだ。豊島住民は、行政責任を損害賠償で追求するこれまでの住民運動から新たな一歩を踏み出した。子供たちの未来に「負の資産」を残したくないと。またそれは「官に誤りはない」ことを前提とした日本の官僚制度を撃ち、豊島で今後、10年以上続く中間処理に住民がどう参加し、透明性を保ち、完全な「情報公開」の下で中間処理を行わせるかは、産廃行政の転換点となると確信する。

## アースデイ・かがわ in 豊島報告

実行委員会事務局担当 真鍋宣子



「アースデイの行事を豊島でやりたいね」という話は去年からありましたが、あちこちの団体に呼びかけて始めて実行委員会を開いたのは2月下旬、4月20日まで後2カ月を切っていました。アースデイの内容を知らない私が事務局を引き受けたのですから、何事もみなさんのお力を借りるしかありませんでした。さすがに市民運動のベテラン揃いで参加団体が13、協賛金10万円も集まり、行事の内容も固まり案内チラシが出来上がったのは3月末。参加団体だけでなくマスコミにも知らせて一般参加も呼びかけ賑やかな行事にしたいものと各方面に働きかけました。新聞・ラジオの力は大きく兵庫、島根、高知、愛媛、岡山などから問い合わせの電話があり参加者の増えそうな気配が感じられました。マスコミからも何人規模の集会になりますかと聞かれたのですが、出欠を取っているわけでもなく予想は立ちませんでした。ただ直前になって高松からチャーターしているフェリーと海上タクシーでは足りなくなり、海上タクシー2往復を追加しました。後は晴天を望むだけ。

当日快晴。豊島は高松からこんなに近いところだと知らせたいと、カヌー日帰り往復を企画したハルリバさんにとっても波の穏やかないい海でした。夢企画かたくりのオープニングコンサートから始まり、豊島の太鼓台まで用意しての伊勢音頭に続いて講演、午後は現場視察、どんぐりまきハイキング、探鳥会、サイクリング、ツーリング、魚釣り、わらび取りなどそれぞれ楽しみました。前日から泊まり込みで用意した環境展を熱心に見る人もあり実りある一日だったことが、回収されたアンケートからも読み取れました。特に始めて現場に立った人々の衝撃は大きかったようです。

豊島島内にもアースデイの行事案内が全戸配付され大勢の住民参加があり、豊島問題解決に向けて力を合わせて取り組むきっかけになったことでしょう。美しい地球を次の世代に手渡すことが今を生きる私たちの責任です。

「徐々に島の人たちの晴れやかな笑顔を見た」の言葉が心に残りました。また豊島でお会いしましょう。

## テレフォンインタビュー

## アースデーに、豊島までカヌーで往復

(カヌーショップ ハルリバ・佐野芳徳さん 48 才)

Q. 佐野さんは、高松市内でカヌーショップを経営しておられますが、お店の名前「ハルリバ」はどんな意味ですか。

A. 高松のまん中を流れる春日川から「ハルリバ」と名付けました。私の店は、この川の河口に接してあります。

Q. 今回のアースデーでは、カヌーで豊島まで行かれましたが、きっかけは？

A. 2月でしたか、高松の商店街を歩いていて、豊島問題を写真などで訴える「豊島展」が目に入り、地図を見ると、豊島と高松との距離が15 Km程しかない、カヌーで日帰りのできる距離なんだと

改めて認識したのです。つまり、不法投棄されたゴミからの汚染は、私たちが遊ぶ県都高松の海岸に日常的に届いているということです。これは他人事じゃないと思いました。

Q. この日、豊島までカヌーで行った人は何人ですか。

A. 河口を朝7時に16名で出発しましたが、途中トイレ休憩をした男木島で5人が島に残りましたから、豊島往復は女性2人を含む11人です。

Q. 豊島に着いた時の印象は？

A. 豊島の島影は雄々しいのですが、カヌーから見ると全山が鮮やかなピンクの島つつじに覆われて、非常に美しかったです。

Q. お出迎えもあったのでしょうか？

A. そうです。大漁旗がはためき、大勢の人が出迎えてくれました。豊島小学校の子ども達も7艇のカヌーで出迎えてくれました。上陸して、島の人にパーベキューをごちそうになりました。砂浜が非常にきれいなのが印象的でした。

Q. 島での交流のご感想は？

A. 島の人たちは穏やかでやさしい感じを受けました。この方々は、静かにゆったりした生活をしていられたはずなのに、都会のつけを回され、しなくてもよい産廃での苦勞をしておられる。それも私たちの生活圏からこんなに近い所です。カヌーで行って、改めてその近さを実感しましたね。

Q. カヌーに乗っておられると、海との付き合いは深いでしょうね。

A. そうです。瀬戸内海は、水が入れ替わりにくい、湖のような海域です。汚れた所が一ヶ所あれば、そ



の汚染は全域に広がります。私の店でカヌー教室をやっていますが、その目的の一つに海岸沿い、特に汽水域の大切さを理解してもらうことがあります。汽水域とは、海水と淡水の交わる所、豊かな栄養があり、生命の生まれる所です。ここにしか生息しないハマツナやシジミがいなくなってしまうました。また、藻場も魚の産卵に重要な場所です。海岸沿いをカヌーで行くと、このような生命の豊かさを感じ、この自然は決して人間が作れるものではないことを実感します。

Q. 瀬戸内海では埋め立てが進み、汽水域や藻場を失っていますね。

A. その通りです。若い人たちがカヌーに乗って、これらの場所を大切にしようと思うようになります。

Q. カヌーは若い人にしか楽しめませんか。また、カヌーのおもしろさは？

A. 年齢を問わないのがカヌーです。一日講習を受ければ誰でも乗れます。おもしろさは、水鳥と同じ目の位置で、川や海の面を楽しめることです。私たちはカヌーに乗って潮水を手で汲み飲むこともあります。自然を大切にする、そのサイクルを壊さないことは、私たち自身の生命を守ることだと思えます。これから豊島の人たちと共に、あの場所を昔の美しい海辺に戻すよう努力したいと思います。この機会に入会させてもらいます。

ありがとうございます。楽しい仲間が増えてうれしいです。どうぞ宜しくお願いします。

(インタビューア：阿部)

# 豊島の森によせて

弓削町 塩見美保子

——愛媛県弓削島から、アースデーに送られたパッチワーク

この惑星の誕生と同じ時、海は生まれ、縄文時代から食べ続けられた「アサリ」が今、浜辺から消えた。シオマネキのいた砂浜、タコのいた石垣、ガザミのいた藻場、フジツボ・イソギンチャクや数知れない海藻がいつもいばって、四季の喜びや恵みを与え続けてくれた慣れ親しんだ磯....、こんな身近だった海の風景が、開発という名の造成で渚を壊し、コンクリートの塀で島を囲み、どうしてかその回りをテトラポットで守り、次々と昔の姿がなくなって、今ある形態を保全しようとする人は誰もいない。何年も毎日見てきた海があまりにも早く失われ、思い出だけの海に変わってきている。

壊された自然は、何も産廃の不法投棄だけではないのです。私の住む愛媛の瀬戸内海の小さな弓削島での話です。

産廃で全国的に知られた香川県の豊島に初めて行ったのは'96年11月23日・24日の2日間でした。「豊島に未来の森を作ろう」と呼びかけた環瀬戸内海会議の阿部さんの勧めからでした。悪名高い産廃の現場に案内され、足元から、土でないプラプラとした感触が伝わって来たとき、産廃から流れ出た黒い水と対照に、何千年という年月を経てまなお、白さを失わなかった砂浜の色と海の青、「この島は何を物語っているのかしら。」と同じ瀬戸内海の私の島で、失われたものに対する哀惜



の念が、止めようとしても止まらない涙になっていたのを覚えている。

豊島小学校体育館で行われた豊島住民大会には感動し、交流会では島の人の優しい心に触れ、ずっと、ずっと前からの知り合いのような気持ちになりました。車を借りて島を一周した時のオリーブの緑、田園風景、手入れされたミカン畑、大丁場から眺めた瀬戸の海、神愛館、とんがり山... 少しの知識の中でこの頃から、いつか私のできるパッチワークでこの島を表現したいと思っていました。

3月の瀬戸内トラスト・ニュースが届いた頃から少しずつ始め、あの産廃の地に、未来の森が早く出来るよう一針一針に願いをこめ、4月20日のアースデーに間に合うように作りました。「豊島の森を応援する弓削の会のメンバー」と、思い思いの詩を添えて、「アースデーかがわin豊島」にこのような形で参加させていただきました。



未来の森のテーマソングを歌う“夢企画かたくり”



交流センターでいっしょに歌う人たち

# — 存在意義を問われる

## 基地機能を拡大・強化し、環境を破壊する 「岩国基地滑走路移設事業」に反対しよう

岩国市職平和研究所 田村 順玄

長崎県の諫早湾では、潮止めの堤防が締め切れ、そこに棲む生物の命が風前の灯火となって、全国に大きな世論が巻き起こっている。そこには、ムツゴロウと言うスターもいて、命ということの話題も加味され、この事業の問題点が遅まきながらクローズアップされてきた。

6月1日、岩国基地の滑走路移設事業の起工式が実施される。今から29年前、航空機の墜落の危険や、騒音の軽減、基地跡地の変換を大きな目標・メリットにして、岩国基地の沖合移設計画が始まった。それが今、「市民の悲願」という形になって工事が始まろうとしている。

1600億円の国民の税金を使って、米軍への「思いやり予算」というほどこし。

215ヘクタールの海面を埋め立て、滑走路を2本にし、水深13メートル、延長360メートルの大軍港施設を併設する。国の、沖縄の基地縮小という課題が、必ずやその受け皿として使用するに十分な施設が完備される。

215ヘクタールの埋め立てされる海域には、83ヘクタールにおよぶ藻場・干潟が展開する。ほとんどはアマモ場である。そこは、魚たちの産卵場となり、稚魚のすみかとなる。干潟もまた、多くの生物が棲み、汚れた水も浄化される。大きな役目を果たしている。

瀬戸内海に、これだけ大きな藻場・干潟はもう残っていない。最後の天然の場である。

まさに、諫早湾で騒がれている状態の海が、ここにもあるのだ。

今の内に、この海を残す大きな運動も燃え上がらせなければ。

幸い、環瀬戸内海会議の熱心な取り組みで、岩国基地沖の藻場のきれいな絵はがきが作られた。この絵はがきを全国に普及し、まず岩国基地の滑走路移設事業の問題点を知って頂く、そして、埋め立てをストップさせる、藻場や干潟を残す努力を約束させ、実行させる、そんな行動を盛り上げていきたい。

国は、6月1日の起工式に、地元の市議として活動している私（田村）への案内状を送付しないという愚挙に出た。正しい主張に反論できない時は「排除」する。この国のあり方が、これから始まる事業にもからんで来なければいいのだが。それにはなんととっても国民の声、監視をして行く目である。起工式当日、ピースリンク広島・呉・岩国のメンバーは、基地の前面水域でゴムボート船団を出動させ、市民へのアピール行動を展開する。これからも、どんな小さな事でも、問題点は必ず追求し、あきらめず運動を継続していく、そんな気持ちで全国の仲間と頑張っていく決意である。

中国新聞 9年4月26日

### 藻場・干潟埋めないで

## 岩国基地沖合移設 中止訴え絵はがき

瀬戸内海環境保護運動（東京都）が撮影した、環瀬戸内海会 岩国湾に広がるアマモの群（阿部悦子代表、六十生写真を使った。日本語と五団体）が、米軍岩国基地 英語で「岩国基地沖の藻場、滑走路沖合移設事業の埋め立てを止めないで」と訴え、五枚セットで三百円、十枚で五百円。

沖合移設は、基地東側の海面二百五十秒を埋め立て、滑走路を一沖合に移す事業。埋め立てにより、魚の産卵場となる藻場や干潟はがきを印刷。フリー同会議事務局は「一目で見れば藻場の大切さを分かってくれるはず」と話している。問い合わせは同会議愛国市職員組合08227(2)1611。

環境保護グループ作製



岩国基地沖の藻場、干潟を埋めないで  
Don't Reclaim the Seaweed Bed and Intertidal Flat off the U.S. Iwakuni Base, Japan

滑走路沖合移設事業によって失われる藻場や干潟の保護を訴える絵はがき

# 瀬戸内法と環境庁

## なぜ、いま神戸空港か？

中田 作成 (神戸空港を考える会)

1. 運輸省の飛行場設置許可に続き、港湾計画について環境庁も神戸空港やむをえずとして容認！

運輸省はわずか3ヶ月の審査で「航空法に照らし適正」として、神戸空港の設置を許可しました(1997.2.19)。

次いで、神戸空港のための港湾計画について、中央港湾審議会は原案を承認しました(1997.3.27)。

注目されたのは、これまで神戸空港問題について「瀬戸内法で厳に抑制とされている埋め立てをしてまで、神戸空港の必要があるのか」との堅い姿勢を取ってきた環境庁の対応でした。

しかし、環境庁は、「神戸都市圏における災害時における防災拠点」「中長期の観点から震災復興に資する」「神戸海域の環境改善において先導的かつ主導的な役割を果たす」として、埋め立てをやむを得ないと態度表明をしました。

瀬戸内法との関係についての環境庁の判断の理由は、「空港島および周辺において、緩傾斜石積護岸、神戸港内における底泥の大規模な浚渫・受け入れ等、各種の先駆的な事業を大規模に展開するとしていること」とされていますが、こうした技術的な環境対策をもって瀬戸内法の基本方針に適応するとしたことは、基本的に「厳に埋め立て抑制」とした瀬戸内法を空文化したものであり、厳しい批判を免れません。特に、今後目白押しになっている各地の埋め立て計画に対して、抑止力を完全に失ってしまうことが憂慮されます(4月18日、環瀬戸内海会議等と連名で環境庁に公開質問状発送[5月13日口頭回答])。

2. 市民の生活再建に全力投入されたか？

### —未解明課題が山積み

一方、被災住民の生活再建も困難ななかで、「なぜ今空港なのか？」という疑問がわだかまっています。市が主張する「空港建設費と住宅建設費とは別」は論理のすり替えで、マヤカシだといわねばなりません。

市民が疑問としているのは、「生活・救援再建のために果たして行政として全力投球されたのか」という点なのです。特に、震災後の市民の生活復興と空港とがどのようにつながるのか、全然見えて来ません。「震災復興」を大義名分にした開発推進が憂慮されます。

加えて、必然性、財政見通し、環境、空域、海上交通、活断層、埋め立て土砂など未解決・未解明の課題が山積したままです。特に、震災後の困難な財政状況における、埋立て造成費の償還見通し等の財政見通し、

埋立て土砂の調達計画などの重要な課題について、現段階になっても、いまだ十分な説明がなされていません。

神戸空港問題で、私たちにとって最大の壁となっているのは、神戸市議会の多数会派の間答無用のな推進姿勢です(空港賛成53名、反対19名)。

空港問題への行政、議会多数会派、財界の“翼賛体制”は、反対意見を排除する“復興ファシズム”につながるものです。“復興”の大義名分のもとに、従来と同じ大開発路線が継続・延長されています。

しかし、空港問題は現在の段階で決着がつかないのではなく、まだ重要な手続きが控えています。神戸市は更に、1997年度、港湾区域の拡張、公有水面埋立て手続きに着手(2次アセスメント→埋立て免許申請)、年度内にすべての手続きを完了し、1998年度には着工の方針です。

従来の大開発と行政主導路線からの転換か。それとも震災からの教訓を学ばぬ既成路線の継続・延長か。

今こそ“復興”の方向と内容が問われています。空港問題こそ、最も端的に復興の方向を問いかけるものです。

「沈黙は承認の印！」10月には神戸市長選挙が予定され、まさに市民の選択が問われています。

### 神戸空港計画の経緯

- 1973. 8 宮崎市長(当時) 神戸沖空港計画の撤回を表明
- 1990. 3 市会「6次空整組入れを求める意見書」を全会一致で決議
- 5 神戸空港基本計画検討委員会報告書が出る
- 1991. 11 6空整に予定事業として組み入れ
- 1993. 8 新規事業に格上げ
- 1994. 12 1995年度政府予算に、着工準備調査費計上
- 1995. 2 笹山市長、震災後も空港手続き推進を表明
- 6 神戸市議会議員選挙
- 10 市は、飛行場設置および港湾計画変更のためのアセスメント手続き開始
- 1996. 3 飛行場設置許可申請の中止等を求める3団体の市会陳情不採択あるいは打ち切り
- 3 神戸市会・兵庫県会は空港整備法に基づく「同意」議決
- 4 神戸市は空港整備・空港関連整備・港湾計画変更についてアセスメント完了(第1次アセスメント)
- 5 運輸省は環境庁に評価書送付のみで環境庁長官の意見を求めず
- 11 市は運輸省に飛行場設置許可申請
- 11 市は神戸港港湾審議会開催
- 12 運輸省による公聴会開催
- 1997. 2 運輸省は神戸空港の設置を許可
- 3 中央港湾審議会で神戸空港のための港湾計画承認(環境庁、神戸空港の建設やむを得ずとして容認)
- 3 神戸市会「住民意向調査を求める再請願」を不採択
- 4 運輸省に対して異議申立て、環境庁に公開質問状提出

## 立ち木バンクは今

一般廃棄物最終処分場建設の現状（徳島県 池田町）

きれいな水と命を守る会代表 工藤 政幸

郡内八ヶ町村で作る広域行政組合の一般廃棄物最終処分場は、立ち木トラス地を外して平成8年9月26日、建設工事に着手しました。しかし、平成9年5月20日現在、工事着手といっても資材搬入用道路の部分的拡張工事のみで、本工事の方は全然手がつけられておりません。

池田町の最終処分場予定地には、230本の立ち木トラスの札掛けを実施しております。このうち120本は、瀬戸内トラスの支援によるものです。

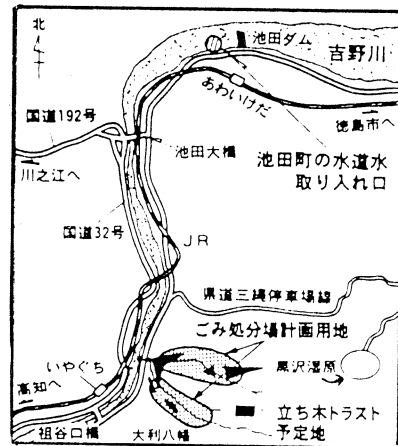
平成5年発表の最初の最終処分場計画は、予算総額42億円で、面積23ヘクタール、容積50万立方メートル、2つの谷を全て埋め尽くすと言うものでした。

立ち木トラス地や借地をはずしての平成8年発表の新しい処分場計画は、予算総額47億円で、面積12ヘクタール、容積5万立方メートル。谷をはずして山の斜面を削って埋め立てることになり、新たにリサイクルプラザを併設したとはいえ、10分の1の規模に縮小されたのに、予算総額は増加しているのです。

進入道路も変更したため難工事になりそうです。最終処分場の工事が始まった今、我々ができる強力な手段は、国の会計検査院にこの工事の違法性を告発し、処分場を完全に潰してしまうことです。現在、法律専

門家に依頼し告発の準備を進めております。その違法性の根拠は、1. 厚生省に提出された書類において、土地の取得状況や地目に虚偽の記載あり、2. 建設工事入札当日に組合議会を開会し、請け負い契約の承認をし、さらに本契約まで一気にやってしまった、3. 平成8年度は工事をしていないのにも関わらず、13億円もの予算の繰越し手続きをせず、平成9年度の予算19億円を承認してしまっている。

以上のように、池田では処分場は着工されはしましたが、最後まで諦めずに頑張ります。



立ち木トラスで ふるさとの水を守る（東広島市）

松板川を守る会 河野 好一

私たちの所は、今田植えの時期を向かえております。

きれいな山水を田んぼにひいて、小さな苗を植えました。これから9月中頃まで、山水のお世話になります。次第に田んぼが緑色へと変化していきます。農業は水がなければやって行けません。また、自分たちの口に入れるものですから、きれいな水で育てなければなりません。今はまだそのきれいな水があります。これからは私たちの子どもにバトンを渡して行かなければいけないその水が、今、危ない！

東広島市は、広島大学が移転し、学園都市としてどんどん発展しており、里山もどんどん削られています。

山の中に住んでいる私たちから見ると、やはりさ

ない気持ちになります。

ところで、皆さんに協力してもらって立ち木トラスを始めて、早いもので2年と7ヶ月位になります。事業者の動きは、立ち木トラスを境に無くなりました。県庁は市の事前指導書を調べた所、3分の2の同意に不明な点があり、事業者に戻してそのままになっています。事業者も汚いことをしているなど、つくづく思います。こんな事業者に、絶対負けてはいけません。

みなさん、これからも応援して下さい。町の人と一緒になれば必ず守って行けると思います。

これからも、心を引き締めてやって行きます。

ゴルフ場が計画されている山





## ④ 4-2/ 吉和の県境付近

### ヤマグリとトチ

西中国山地の広葉樹林を再生しようと活動している市民グループ「森と水と土を考える会」（原戸祥次郎会長）は20日、佐伯郡吉和村中津谷にヤマグリとトチの苗木660本を植樹した＝写真。アースデーの22日を前に広島市民の水がめ、太田川の源流を守る目的もあり、今年で3回目。

中津谷を起点とする「十方山林道」を拡幅してスーパー林道にする国の計画に対して、同会は「貴重な自然林が分断される」などと反対している。1994年からは「自らの

手で林を再生しよう」と、地元の林業者の協力を得てブナなどの苗木を育て、植林している。

この日、家族連れら60人は、中津谷川をさかのぼった県境付近の空き地2カ所に、スコップやつるはしで穴を掘り、50センチほどの苗木を植えた。苗木には夏に生えてくる雑草と区別するため、ピンクのひもが付けられた。

広島市西区の書店経営宝来孝志さん（58）は「林道にただ反対をいうだけでは能がない。植林は家族みんなで参加できるし、楽しい」と話していた。

### 家族連れが植林



## 森づくりを楽しむ

事務局長 原戸 祥次郎

### 西中国山地ブナの森づくり

広島 森と水と土を考える会 原戸祥次郎

「大きなブナの木じゃねー、大規模林道を作ったらこのブナもミズナラもだめになるねー」

「なにいいよるん、昔のここらの木に比べたらこんなのかすよね、切り株に寝られるようなのをわしら伐りよったでー」

島根との県境近く。吉和村の十方山と恐羅漢山に挟まれた、十方山林道。

ここを拡幅し、大規模林道をつくることに反対する運動の一環として、数年前、林道ウォーキングした時に、地元の方と交わした言葉でした。

大規模林道建設の反対運動は、今も続けています。

しかし、熊や小型サンショウウオの研究家を迎えての勉強会、シンポジウム、写真展、ウォーキング等を開催するあいだに「元の西中国山地は何と豊かな生態系を有していたのだろう、残されたブナ林を<守る>でなく、元の豊かなブナ林を再生したい」と私たちは、願うようになりました。

今は、ブナ、トチ、ミズナラ、ヤマグリなどのドングリを拾い、苗畑で育てています。

3年間育てた苗で昨年、念願の植林をしました。

この春で3回目の植林でした。

3回合わせても千本に満たない数の植林です。

でも私は思うのです、こんな運動が広がって、市民が一人1本ずつでも山に木を植えたら、何十年経っても、その人は植えた木が気掛かりでしょうし、木の実を動物が食べてるかなと、嬉しくなるかもしれない。そんな人が増えていったら、環境破壊なんて絶対起こりっこない、と。

西中国山地ブナの森づくり、あなたも御一緒しませんか。

## 仲間からの、

## 二二つの手紙

副代表・東京事務局

倉橋澄子（渋谷区）

環瀬戸内海会議の皆様、次々と襲ってくる大きな困難に、力を振り絞って立ち向かっておられることと申します。私は離れた東京におりまして日常なかなか一緒に行動できませんが、心はいつも皆様と共にあります。

「神戸空港を考える会」の方々と同行して、三月と五月の二回、環境庁へ出かけました。毎度のことながら同庁の姿勢には落胆させられます。公開質問状の回答はすべて空港建設推進の立場からですし、瀬戸内法の改正については、必要を認めず全く考えていないと断言していました。

環境破壊の元凶である公共事業の権限を一手に握って国を支配している霞が関に対して陳情という生ぬるい手段はナンセンスなのかもしれません。空疎な答弁を聞きながら私は一瞬、諫早湾のムツゴロウのような気分になりました。わが祖国は国家ぐるみの犯罪といってもいい暴力的破壊によって満身創痍です。何事も一過性で重大事件が映像で流れ去るのみの東京ですが、ここまで末期的になるとさすがに声を上げる人が増してきました。

ゴルフ場反対から出発して成果を挙げてきた環瀬戸の仲間たちが、ますます複雑深刻になる自然破壊を前にして、くじけず戦っておられることをいつも誇らしく思っています。これから先もあらゆる分野の心ある方々の英知をいただいて勉強し、自覚した個人の力を結集して大きな力に育ててゆきましよう。それが今は唯一の道だと痛感しております。



喜阿弥いのちと環境を守る会

石川美智（島根県益田市）

前略 平成五年、立木トラストを環瀬戸内海会議のおかげで実施してから、当地喜阿弥町のゴルフ場はストップしました。こんな見事な効果の早かった場所も珍しいのではないのでしょうか。同じ頃、

美都町でも立木トラストを行いました。美都町の方は飛地として残したまま県が許可したためと、他にもいろいろあって今や泥沼化してしまいました。

林地開発の許可要件を無視して許可したため、現実には建設の可能性はほとんど無いにもかかわらず、町も会社も何故か中止しようとしません。私たちも出来る限りのことをやってきましたつもりです。県では、森林整備課はもちろん、土木、環境保全の他、行政監察、銀行等、三十数回通いました。公害調停もやりましたし、町民は裁判にも持ち込んでいます。

最近、町三役がゴルフ場建設の遅延を理由に三カ月の減俸を申し出て、議会で承認されています。しかしそれでもまだストップしようとはしません。一体何があるのか不思議なことです。このままですと県の許可がある限り、水害の常襲地である美都町で万一、梅雨時にかつてのような災害があったとしたら、会社に責任を取るほどの資力はありませんし、県や国の費用で復旧費を出すのは許可取り消しの後でないかと許せません。困るのは住民です。そのことでも県は言を左右して許可取消の努力もいたしません。

こういうのをみても、地方に権限を移したら住民は地獄だと実感します。やはり住民が立ち上がって運動する他ないのですが、実際には昔からの村社会のしがらみに縛られている人たちは動こうとしません。この風潮が無くならない限り、日本の民主主義はまだまだの感があります。

国から県、市町村への金と命令の流れがある限り、官々接待もなくならないし、かと言って、地方に権限を移しても今のように住民の為に働ける人材が少ないとしたら一体どうなるのだろうかとうと寂しい限りです。私もゴルフ場反対を始めて十年近くになります。もう歳を取りすぎました。若い人達の努力に待つほかありません。皆さんの一層の頑張りを期待してやみません。



## ご入会ありがとうございます

青木 敬介	青木 揚之	赤堀 由美子	秋月 正章	阿瀬 紀生子	足立 晴美
安達 浩昭	阿部 悦子	安倍 晴代	阿部 倫子	阿部 靖子	鮎目 眞道
荒川 千恵子	有賀 淳子	安藤 眞一	井家上 尚子	池田 健一	池田 フィリス
石井 多美子	石川 美智	石川 代志子	石原 淑二郎	市川 虎彦	市村 康
井出 敏夫	井上 昭	井上 洋子	伊原 福富	今井 光夫	今川 正章
今城 三恵	今中 昭治	岩田 千鶴	宇井 純	上田 真弓	上野 光枝
上村 八千代	宇田 恵美子	卜部 元喜	大石 ちづよ	大内 光也	大迫 佳子
大嶋 礼子	太田 芳治	大西 佳代子	大沼 和世	大野 恭子	大橋 進
大早 友章・直美	岡 哲子	岡部 晴子	岡本 隆夫	岡 禮子	小川 美知
沖田 雅晴	沖仲 啓子	小椋 博	越智 芳隆	小原 富美子	櫻沢 秀木
梶山 正三	栢野 邦子	梶原 稔子	粕谷 美代子	片岡 節雄	勝村 眞知子
門倉 剛	角田 尚子	兼本 達雄	川口 寿子	川端 春枝	河村 八重子
北川 晴江	北野 章子	北野 多恵子	北山 油子	木下 織枝	木原 清子
工藤 政幸	久保 和彦	窪田 聡	久保田 芙美子	倉橋 澄子	倉橋 暢子
倉橋 浩	栗延 俊太郎	栗原 帯伊	栗原 崇	桑田 健吾・武子	河野 静枝
河野 潤子	河野 恒昭	小島 謙子	古庄 寿也	五藤 康子	後藤 嘉彦
小西 良平	小林 トミヨ	小林 靖浩	小林 良官	小堀 和子	米谷 信義
古茂田 知子	古森 さゆり	近藤 美栄子	西郷 勝康	斉藤 良次	佐川 武夫
迫 義人	佐々木 敦子	佐々木 英輔	佐々木 徹	佐々木 ミサヲ	定行 良次
佐藤 斎一	鮫島 慎子	上田 淑	重松 和之	重村 八重子	島田 英子
清水 美代子	庄司 恵雄	白石 美智子・博文	新川 千春	神野 明	新福 祐子
末永 まゆみ	鈴木 龍也	須藤 千恵子	砂川 三男	住川 幸三	脊尾 昌弘
瀬野 千里子・由子	外間 正枝	高岡 明子	高木 美枝子	高梨 恵津子	高橋 健一
武井 多佳子	竹内 道子	田坂 清太	多田 寿代	立野 トモ子	建島 由子
田中 彰	田中 喜美子	田中 時枝	田中 春子	田中 布由子	田辺 澄子
谷 巖彦	谷井 尚子	谷川 正彦	谷口 衣江	谷島 光治	谷田 光生
谷田 百合子	玉川 聡	田村 西都子	多養 節子	垂水 百合子	千種 陳正
千葉 誠一	塚誠 育子	辻浦 知津代	辻本 美恵子	津田 敏子	津田 悠紀子
経遠 葉子	(株)テクノエクセル	寺岡 洋子	寺口 建三	徳永 涼美	飛田 雄一
富岡 教子	友重 美津江	豊田 佐々雄	永井 昇	中井 洋子	中尾 愛
中岡 節子	中川 紀代美	中川 宗四郎	中島 淳子	永田 順次	中谷 久美子
中田 ヌキ子	長涌 博幸	仲 直美	中西 一男	中野 鈴恵	中野 宏子
中原 延子	中村 ミヤ子	仲 康子	那須 浩雄	西谷 高太郎	西 成子
西口 知子	西武 節子	畑 英理	二宮 徳子	野田 隆三郎	橋本 洋子
長谷川 明彦	長谷川 俊英	馬場 浩太	畑口 欣哉	花岡 佳子	花岡 幹大
花口 光	花房 佳子	原 千砂子	浜津 彰則	濱仲 のら	浜本 恭子
早川 耀子	林田 勲	日野田 昇	原戸 祥次郎	春名 薫子	伴 阿々太郎
東 国裕	尾藤 徳行	藤井 郁子	姫野 常平	平野 静一	平山 忠義
福岡 路子	福田 善枝	藤井 典子	藤井 恵子	藤下 幸子	藤田 郁子
藤田 昌夫	藤村 邦子	藤村 典子	藤本 ツタ	藤原 勲治	藤原 正節
船木 高司	星谷 公恵	星 元雄	細谷 岳彦	堀口 早子	本多 恵子
本領 宏子	前川 昭吾	益田 明美	榎田 真智子	増成 由美子	増野 一恵
松木 達雄	松下 量子	松島 愛子	松本 幸子	松本 静香	松本 官崇
真鍋 てるみ	真鍋 育子	丸山 弘昌	満福都 多恵	三木 順一	三瀬 瑞恵
光本 穰司	南 修治	南 真太郎	宮浦 博子	宮田 伊津美	宮本 和人
宮本 美知子	宮脇 史子	六沢 一昭	武藤 啓	村上 博	村田 早苗
村田 正生	村元 展也	村山 聡	元井 孝子	元山 裕雄	森嶋 俊晴
守田 誠一	森戸 改治	八木 庸子	安富 睦	安村 章	矢野 宏典
矢野 南	薮西 多可子	山口 香	安富 睦	山田 みさ代	山本 輝正
山本 史子	山本 ミツエ	山本 安民	山崎 貞子	由良 裕子	橋田 悦子
構 浩子	吉岡 ひろみ	吉川 富子	吉村 信男	依田 彦三郎	蓬 清二
湧山 敏夫	和田 幸子	渡辺 さと子	渡部 伸二	渡部 淑子	渡部 御千代
渡辺 美代子	渡辺 芳子	和田 好子			

(50音順/'97年 5月24日現在)

ゴルフ場反対の立木トラストから始まって、立木刈り、立木新行、そして今回の豊島「未来の森トラスト」と、多くの方が快く応えて下さり、ありがたいという思いと同時に、身の引きしめるような責任を感じます。「未来の森トラスト」は、産廃跡地に森をつくる広大な計画です。皆さんのお友達にも、どうかトラストの輪を広げていただけますようお願いいたします。

事務局長 原戸祥次郎

## 第8回 総会のご案内!

今しか未来は守れない・好きです“瀬戸内海”

日時：1997年6月28・29日

場所：玉藻会館 (Tel 0878-22-7700)

高松市丸之内 6-25 (JR 高松駅より徒歩 15分)

参加費：1,000円 (宿泊費は問い合わせの事)

讃岐うどんも  
待ってるよ!

問い合わせおよび宿泊申し込み先

現地実行委員会 三木 雅博

〒761-07 香川県木田郡三木町井上2188

TEL&FAX 0878-98-0708

または、広島事務局 Tel 082-296-1444

\*6月28日午後 (13:00~17:00)

現地報告

産廃問題 (豊島・豊島ネット、吉永町、牛窓町)

ゴルフ場 (東広島、直島)

埋め立て (北九州市曾根、岩国、神戸空港)

講演：河宮 信郎 氏 (中京大学・エントロピー学会)

「私たちはどんな社会を求めるか」

\*6月29日午前

総会・プロジェクト報告

\*6月29日午後

栗林公園散策、カヌー初心者教室 (先着10名)

(カヌーショップハルリバ、佐野さんがお世話して下さいます。)申し込み先：TEL 0898-32-0100

愛媛事務局で、絵はがき販売のお世話をしています。全国各地から注文やカンパがきています。大変嬉しく発送作業をしています。特に多いのは、京都・東京・神戸・大阪・山口・広島などです。現在のところ、注文販売⇒800枚 直接販売⇒900枚 団体販売⇒3000枚 その他⇒2000枚です。

お便りもいただいています『私は、1957年から3年間岩国に住んでいました。当時コンビナート全盛時代で、海辺にそそり立つ煙突からは焔が燃え盛っていました。一見景気のいい様に見える、売りにくる魚は新しいにもかかわらず、油の匂いが鼻をつき食べられませんでした。水島コンビナートの事件等起るべくして起った事件でした。当時もどんどん海を埋立ててどうなることかと不安でしたが、今、この時代に基地を拡張するために埋め立てるとは言語道断です。遠くからですが支援させていただきます』



6月1日、とうとう埋立て工事はスタートしましたが、藻場の埋立ては数年後になるそうです。絵はがきで反対の意思表示を続け、みんなで

『藻場の埋立てを中止させましょう!』 愛媛事務局 中村ミヤ子

はがき注文先 愛媛県北条市光洋台1-27 ☎ 089(994)1809 10枚⇒500円 5枚⇒300円

・防衛施設庁長官 諾富 増夫 〒100 東京都港区赤坂 9 (当面は集中してこちらへ)

(ハガキは、抗議文入り・抗議文なしの二種類あります。)

瀬戸内トラストニュース 第13号 1997年6月7日発行

環瀬戸内海会議代表 阿部 悦子

〒794 今治市別宮町 9-7-4 TEL 0898-32-0100 FAX 0898-23-9162

広島事務局「森と水と土を考える会」気付

〒733 広島市天満町 9-8 TEL&FAX 082-296-1444

郵便振替 01390-8-25742 加入者 瀬戸内トラスト